様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２７０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１４７９

研究課題名（和文）将来の仕事と生活に関する主観的期待調査による期待形成、就業選択、政策効果の分析

研究課題名（英文）Measuring Students' Subjective Expectations on Career and Life

研究代表者
奥村　綱雄（Okumura, Tsunao）

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授

研究者番号：９０３２３９２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　19,210,000円

研究成果の概要（和文）：青年男女が自分の将来の就業状態・働き方、および、結婚・出産・育児の家庭生活をどのように期待しているかについて、現状の場合と「女性活躍推進法」「働き方改革法（長時間労働規制）」の政策が実現した場合のそれぞれを想定したうえで、青年男女を対象にアンケート調査を実施して聞きとった。調査結果を様々な角度から実証分析した結果、青年は、(1)「女性活躍推進法」の政策の下では、将来子どもを持つ予想確率が低下する。(2)「働き方改革法（長時間労働規制）」の政策の下では、将来結婚し、子どもを持つ予想確率が上昇する、との結果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
女性、男性ともフルタイムでの就業と子育てができる社会の実現を目標に、政府は「女性活躍推進法」や「働き方改革法」の政策を立案し実施しようとしているが、これらの未実現の政策が、将来人々の働き方や育児にどのような効果を与えるかを予測するのは、観測データを用いた従来の調査・計量方法では難しい。本研究の学術的意義は、たとえ個人の行動が未実現で観測できない状況でも、新しい政策が実施された場合の個人の「期待」の変化を直接聞きとることによって、政策の効果を予測できる方法を開発し、上記の２つの政策が青年の将来の就業や子育てに与える効果を予測することである。社会的意義は、その結果を基に、政策を提言することである。

研究成果の概要（英文）：How do young men and women expect their future employment status, work style, and family life including marriage, childbirth, and childcare?
We conducted a questionnaire survey targeting young men and women and asked questions based on (1) the current situation and (2) hypothetical scenarios in which, “the Act on Promotion of Women's Participation and Advancement in the Workplace” and (3) “the Work Style Reform Laws”, respectively, were implemented.
We conducted empirical analysis of the survey results to find that young people expect that (1) under “the Act on Promotion of Women's Participation and Advancement in the Workplace”, the probability of having children in the future decreases, and (2) under “the Work Style Reform Laws”, the probability of getting married and having children increases.

研究分野：経済政策

キーワード：経済政策　計量経済学　労働経済学　主観的期待　就業選択

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

少子化が進行し、生産年齢人口が減少し続ける日本において、女性が就業と出産・子育てを両立でき、男性が就業しながら子育てにもさらに参画できる社会を構築することは、幸福度の高い社会を実現するためのみならず、日本経済を成長させるためにも、最優先の課題である。

これらの問題を解決するため、日本政府は「女性活躍推進法」や「働き方改革法（長時間労働規制）」の政策を立案し、実施しようとしているが、これらの政策が、人々の働き方や子育てにどのような効果を与えるかを予測することは、従来の研究アプローチでは困難である。

本研究では、青年男女を対象に、将来の働き方や生活などに対する期待を測定する新たな調査を実施する。具体的には、前述の政策が実現されたと仮定して、青年が抱く将来の働き方や子育ての期待がどのように変化するかを調査し、分析することにより、当該の政策が青年の働き方や子育てに与える効果を数値で予測する。

２．研究の目的

本研究は、青年の将来への展望、すなわち、彼らの将来の働き方や生活などに対してどのように期待しているかについての社会調査を実施する。特に、政策が、青年の将来への期待にどのような影響を与えるかについて追及する。分析結果を踏まえて、今後の働き方や生活の支援に有効な政策を提言する。

３．研究の方法

本研究では、経済学が想定する「人々は、まず、将来に対して「期待」を形成し、その期待に応じて、現在の行動を選択する」というフレームワークに立脚する。そして、たとえ個人の行動が未実現で観察できない状況であっても、その個人の「期待」をかなりの程度的確に観測できれば、青年の行動を予測できると考える。

特に、現状の下でと新しい政策の下での青年の働き方と結婚・育児を同時に聞き取ることにより、新しい政策が個人の期待をどう変化させ、その働き方と結婚・育児の選択をどう変化させるかを予測する。さらに、「政策の施行⇒学生が抱く将来の社会の労働環境と家庭環境に対する期待の変化⇒学生自身の将来の働き方と生活に対する期待の変化」の因果関係を、推定し評価する。このとき、青年の期待を「主観的期待確率」の形式で聞きとることにより、個々人の期待を絶対値で評価し、(i)個々人間で、(ii)政策の実施の前後で、比較することができる点が、本研究方法の新規性である。得られた調査結果を、部分識別の方法などの新しい計量経済学の手法を用いて推定し、様々な角度から分析する。

４．研究成果

青年男女が自分の将来の就業状態・働き方、および、結婚・出産・育児の家庭生活をどのように期待しているかについて、現状の場合と「女性活躍推進法」「働き方改革法（長時間労働規制）」の政策が実現した場合のそれぞれを想定したうえで、青年男女を対象にアンケート調査を実施した。この調査の結果を様々な角度から実証分析を行った。

その結果、青年は、

(1) 「女性活躍推進法」の政策の下では、将来子どもを持つ予想確率が低下する。

(2) 「働き方改革法（長時間労働規制）」の政策の下では、将来結婚し、子どもを持つ予想確率が上昇する、との結果を得た。

この研究結果に基づき、現在、研究論文をまとめている。その内容を、今後、国際学会で報告

し、そこで得たコメントを基に改訂したうえで、査読付き国際学術誌に投稿する予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計28件（うち査読付論文　15件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 Yuta Kikuchi	４．巻 1
２．論文標題 Impact of university reform on research performance aggregated and disaggregated across research fields: a case study of the partial privatization of Japanese national universities	５．発行年 2021年
３．雑誌名 The Japanese Economic Review	６．最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s42973-021-00074-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 菊地 雄太，今井 晋，鈴木 広人	４．巻 72
２．論文標題 近年の生産関数推定法の概観	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会科学研究(東京大学社会科学研究所)	６．最初と最後の頁 69-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34607/jssiss.72.2_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 茨木貴徳	４．巻 2190
２．論文標題 ヒルベルト空間における非線形写像族の共通不動点へ収束定理	５．発行年 2021年
３．雑誌名 京都大学数理解析研究所講究録	６．最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 茨木貴徳	４．巻 2194
２．論文標題 λ-ハイブリッド写像の族に関する不動点定理	５．発行年 2021年
３．雑誌名 京都大学数理解析研究所講究録	６．最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 鈴木孝弥・茨木貴徳	4．巻 13
2．論文標題 問題作成課題を用いた学習意欲を高めるための指導法 -- 数列の単元に着目して--	5．発行年 2022年
3．雑誌名 教育デザイン研究	6．最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yuko Ueno and Emiko Usui	4．巻 202
2．論文標題 The Effects of Providing Childcare on Grandmothers' Employment and Mental Health in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The Economic Analysis	6．最初と最後の頁 125-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Marie Hirakawa, Nahoko Mitsuyama, Takashi Oshio, and Emiko Usui,	4．巻 18;20(2)
2．論文標題 Chances of Pregnancy after Dropping out from Infertility Treatments: Evidence from a Social Survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Reproductive Medicine and Biology	6．最初と最後の頁 246-252, 2021
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/rmb2.12377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Seik Kim and Emiko Usui.	4．巻 59(3)
2．論文標題 Employer Learning, Job Changes, and Wage Dynamics	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Economic Inquiry	6．最初と最後の頁 1286-1307
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ecin.12980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Emiko Usui and Tsunao Okumura	4．巻 694
2．論文標題 Pension Expectations and Household Portfolio Choice of the Elderly in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 一橋大学ディスカッションペーパー	6．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 臼井恵美子・佐藤繭香・松下美帆	4．巻 695
2．論文標題 新型コロナウイルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス	5．発行年 2021年
3．雑誌名 一橋大学ディスカッションペーパー	6．最初と最後の頁 1-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Marie Hirakawa, Emiko Usui, Nahoko Mitsuyama, Takashi Oshio	4．巻 20
2．論文標題 Chances of pregnancy after dropping out from infertility treatments: Evidence from a social survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Reproductive Medicine and Biology	6．最初と最後の頁 246-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/rmb2.12377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 臼井恵美子、羽衣杉雄	4．巻 71
2．論文標題 医師専門医資格取得の男女差と医療現場の課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 経済研究	6．最初と最後の頁 358-376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Naohiro Ogawa, Rikiya Matsukura, Sang-Hyop Lee	4．巻 46
2．論文標題 Women’s changing work arrangements, career paths, and marital fertility in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Advances in Life Course Research	6．最初と最後の頁 100375-100375
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.alcr.2020.100375	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Bernardo L. Queiroz, Rikyia Matsukura, Joze Sambt	4．巻 -
2．論文標題 Social Security Around the World	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Gu, Danan, Dupre, Matthew E (Eds.) Encylopedia of Gerontology and Population Aging, Springer 所収	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-319-69892-2_529-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 小林唯一、茨木貴徳	4．巻 12
2．論文標題 高校生段階における微分法積分法の概念イメージに関する調査 --学習方略との関連に着目して--	5．発行年 2021年
3．雑誌名 教育デザイン研究	6．最初と最後の頁 104-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 T. Ibaraki and Y. Takeuchi	4．巻 66
2．論文標題 A mean convergence theorem finding a common attractive point of two nonlinear mappings	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Yokohama Mathematical Journal	6．最初と最後の頁 61-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ibaraki Takanori、Kajiba Shunsuke、Kimura Yasunori	4．巻 327
2．論文標題 Approximation of a Common Fixed Point of Two Nonlinear Mappings with Nonsummable Errors in a Banach Space	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Springer Proceedings in Mathematics & Statistics	6．最初と最後の頁 185-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-15-5455-1_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今井晋，菊地雄太，佐々木潔，鈴木広人	4．巻 70
2．論文標題 寡占市場の均衡化における製品の品質の生産費用に対する影響の識別:推定に関するノート	5．発行年 2020年
3．雑誌名 經濟學研究（北海道大学院経済学研究科）	6．最初と最後の頁 3-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松倉力也	4．巻 4(2)
2．論文標題 ３つの人口配当：国民移転勘定（NTA）を応用した人口年齢構造変化と経済の影響	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会保障研究	6．最初と最後の頁 178-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小川直宏、松倉力也	4．巻 -
2．論文標題 中高年における年齢別認知機能水準と認知疾病患者の将来展望	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ひょうご震災記念21世紀研究機構　少子高齢化の制度設計　研究報告書	6．最初と最後の頁 50-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小川直宏、松倉力也、伊藤ゆかり	４．巻 -
２．論文標題 出生と家族・仕事の関係	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ひょうご震災記念21世紀研究機構　少子高齢化の制度設計　研究報告書	６．最初と最後の頁 65-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小川直宏、松倉力也	４．巻 -
２．論文標題 介護と家族・仕事の関係	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ひょうご震災記念21世紀研究機構　少子高齢化の制度設計　研究報告書	６．最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 今井晋、菊地雄太、田中藍子	４．巻 -
２．論文標題 操作変数を使わない需要関数の推定	５．発行年 2019年
３．雑誌名 現代経済学の潮流2019第3章（東洋経済新報社）	６．最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菅野早紀	４．巻 春号
２．論文標題 遺産の受け取りが中高齢者の消費行動に与える影響について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 季刊　個人金融	６．最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 茨木貴徳	4．巻 2112
2．論文標題 零点問題に関する誤差付きの近似定理	5．発行年 2019年
3．雑誌名 京都大学数理解析研究所講究録	6．最初と最後の頁 20-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 茨木貴徳・梶葉駿介,	4．巻 2114
2．論文標題 2つの非拡大型非線形写像に関する総和不可能誤差付の共通不動点近似	5．発行年 2019年
3．雑誌名 京都大学数理解析研究所講究録	6．最初と最後の頁 165-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 奥村綱雄	4．巻 34
2．論文標題 医療経済領域における部分識別研究の進展	5．発行年 2022年
3．雑誌名 医療経済研究	6．最初と最後の頁 51，68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tsunao Okumura, Yuko Ueno and Emiko Usui	4．巻 forthcoming
2．論文標題 Effects of Mandatory Residencies on Female Physicians’ Specialty Choices: Evidence from Japan’s New Medical Residency Program	5．発行年 2024年
3．雑誌名 Labour Economics	6．最初と最後の頁 XX-XX
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計29件（うち招待講演　10件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 菊地雄太
2．発表標題 Impact of university reform on research performance aggregated and disaggregated across research fields: a case study of the partial privatization of Japanese national universities
3．学会等名 一橋大学イノベーション研究センターサマースクール（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 T. Ibaraki
2．発表標題 Fixed point theorems for a family of λ-hybrid mappings in a Hilbert space, The Third International Workshop on Nonlinear Analysis and Applications
3．学会等名 Faculty of Science and Mathematics, University of Nis, Serbia (Online（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 茨木貴徳
2．発表標題 2つの非線形写像に関する共通吸引点への収束定理
3．学会等名 RIMS共同研究、オンライン開催
4．発表年 2021年

1．発表者名 鈴木孝弥・茨木貴徳
2．発表標題 高等学校における生徒の学習意欲を高めるための教材開発と分析 --九九表を用いた数列学習の実践を通して
3．学会等名 日本数学教育学会 第54回秋期研究大会(オンライン開催)
4．発表年 2021年

１．発表者名 臼井恵美子
２．発表標題 新型コロナウィルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス，労働政策フォーラム「ワーク・ライフ・バランス研究の新局面―データ活用基盤の整備に向けて―」
３．学会等名 独立行政法人労働政策研究・研修機構/日本学術会議経済学委員会ワークライフバランス研究分科会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Sun, Jessica Ya, and Emiko Usui
２．発表標題 How do Age-related Policy Reforms Promote Elderly Employment in Singapore?
３．学会等名 Society of Labor Economics Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Teresa Molina and Emiko Usui
２．発表標題 Female Labor Market Conditions, Human Capital Investment, and Aspirations
３．学会等名 HIAS Lunch Seminar, Hitotsubashi University,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Teresa Molina and Emiko Usui
２．発表標題 Female Labor Market Conditions, Human Capital Investment, and Aspirations
３．学会等名 UH Manoa Applied Micro Seminar,（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 臼井恵美子
２．発表標題 女性医師のキャリア選択と医療現場の課題
３．学会等名 日本経済学会 2021年度春季大会、関西学院大学、オンライン（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 臼井恵美子
２．発表標題 特別講演「女性医師のキャリア選択と医療現場の課題」
３．学会等名 第46回日本外科系連合学会学術集会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 奥村綱雄
２．発表標題 部分識別の基礎について
３．学会等名 横浜市立大学　ワークショップ経済（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Emiko Usui
２．発表標題 The Effects of Providing Childcare on Grandmothers' Employment and Mental Health in Japan
３．学会等名 内閣府ESRI国際共同研究
４．発表年 2021年

１．発表者名 Emiko Usui
２．発表標題 Career Development of Female Physicians in Japan
３．学会等名 International Conference on Science and Technology for Sustainability, Science Council of Japan（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松倉力也
２．発表標題 Sexual desire among people in the reproductive ages: Sexual activity with/without a partner
３．学会等名 日本人口学会第72回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 松倉力也
２．発表標題 開発途上国における少子化の進展とその要因：男性生殖機能低下の観点から
３．学会等名 JICA　緒方研究所　セミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 茨木貴徳
２．発表標題 λ-ハイブリッド写像族に関する存在定理および収束定理
３．学会等名 RIMS共同研究（公開型）"非線形解析学と凸解析学の研究",
４．発表年 2021年

１．発表者名 小林唯一・中神一総・茨木貴徳
２．発表標題 大学初年次生における微分積分法のイメージに関する調査 --学習方略との関連に着目して--
３．学会等名 日本数学教育学会 第54回秋期研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 菊地雄太
２．発表標題 Joint Identification and Estimation of Firm-Level Markup and Production Function
３．学会等名 Summer Workshop on Economic Theory (SWET)
４．発表年 2020年

１．発表者名 奥村綱雄
２．発表標題 部分識別入門
３．学会等名 日本大学大学院経済学研究科特別講義（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Taiyo Fukai, Hidehiko Ichimura, Rikiya Matsukura, Naohiro Ogawa
２．発表標題 Changing Cognitive Performance and the Untapped Work Capacity of Old Persons in Japan
３．学会等名 Stanford-Hallym Asia-Pacific Innovation Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 森本美恵、松倉力也
２．発表標題 夫婦間の性交渉の実態と第二子不妊について：「全国調査仕事と家族　2007&2010」より
３．学会等名 日本人口学会第71回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 松倉力也、小川直宏、佐藤謙
２．発表標題 訪問・通所リハビリテーションを受ける介護保険認定者に関する分析
３．学会等名 日本人口学会第71回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森本美恵、松倉力也
２．発表標題 セックスレス人口の頻度と関連要因
３．学会等名 人口学研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 松倉力也
２．発表標題 ３つの人口配当
３．学会等名 国立社会保障人口問題研究所NTA/NTTAプロジェクト会議
４．発表年 2019年

１．発表者名 Emiko Usui
２．発表標題 The Elderly's Employment Situation in China, Japan, and Singapore: Evidence from the Longitudinal Panel Surveys
３．学会等名 Singapore-Japan Academic Forum on Aging
４．発表年 2019年

１．発表者名 Susumu Imai, Yuta Kikuchi, Akiko Tanaka
２．発表標題 Estimating Demand without Instruments: A Progress Report
３．学会等名 日本銀行調査統計局　行内セミナー
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takanori Ibaraki
２．発表標題 Weak and Strong convergence theorems for common fixed points of a family of nonlinear mappings
３．学会等名 The 13th International Conference on Fixed Point Theory and Its Applications,HeNan Normal University, HeNan, China（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takanori Ibaraki
２．発表標題 Weak and strong convergence theorems for common fixed points of nonlinear mappings in a Hilbert space
３．学会等名 International Conference on Mathematical Analysis and Its Applications South Asian University, New Delhi, India（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 茨木貴徳
２．発表標題 ヒルベルト空間における非線形写像族に関する弱および強収束定理
３．学会等名 RIMS共同研究（公開型） "非線形解析学と凸解析学の研究"京都大学数理解析研究所
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 チャールズ・マンスキー、奥村 綱雄、高遠 裕子	４．発行年 2020年
２．出版社 ダイヤモンド社	５．総ページ数 348
３．書名 マンスキー　データ分析と意思決定理論　不確実な世界で政策の未来を予測する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松倉　力也 (Matsukura Rikiya) (00409145)	日本大学・経済学部・准教授 (32665)	
研究分担者	臼井　恵美子 (Usui Emiko) (50467263)	一橋大学・経済研究所・教授 (12613)	
研究分担者	菊地　雄太 (Kikuchi Yuta) (60782117)	大阪大学・社会経済研究所・特任助教（常勤） (14401)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	菅野　早紀 (Sugano Saki) (70755537)	大東文化大学・経済学部・准教授 (32636)	
研究分担者	茨木　貴徳 (Ibaraki Takanori) (90345439)	横浜国立大学・教育学部・教授 (12701)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関